

	title	name	page	no.	
巻頭言	合成生物学の時代と科学技術のデュアルユース問題	原島 俊	6	1	
	バイオ産業を発展させたい	荒蒔康一郎	108	2	
	地球上からのポリオ根絶計画	野本明男	208	3	
	「社会に役立つ」微生物 バイオリソースセンターとは	中川純一	306	4	
	バイオ人材育成	竹中登一	396	5	
	iPS 細胞がもたらす 4 つの革命	戸田雄三	490	6	
目で見えるバイオ	植物の技術がお手本となって養殖魚の品種改良が変わる	吉浦康寿	398	5	
総 説	亜鉛シグナル：健康と疾患を統御する新しい情報伝達システム	北條慎太郎・深田俊幸	8	1	
	バイオインダストリー協会賞受賞論文 微生物代謝の分子機構と物質生産への機能開発	小林達彦	110	2	
	種子貯蔵タンパク質を利用したバイオ医薬品の生産	丸山伸之・石本政男・長谷川久和	118	2	
	有毒物質ミクロシチンの微生物分解と浄水処理法への応用	清水和哉・杉浦則夫	124	2	
	カルシウム感受受容体 (CaSR) アゴニストとして発見された「コク味」物質による風味の修飾	幸田 徹	210	3	
	“電子の流れ” で代謝を読み解く <i>Hydrogenobacter thermophilus</i> の新規 peroxidase の発見	佐藤由也・新井博之・石井正治	308	4	
	発がん抑制物質ゼレンボンのタンパク質変性ストレスに起因した生理作用	大西康太・入江一浩・村上 明	400	5	
	バイオインダストリー協会賞受賞論文 有用物質生産における次世代基盤技術の開発	池田治生	492	6	
	解 説	炎症の収束に関わる脂質メディエーターの新規機能	有田 誠	14	1
		クリプタイド：タンパク質に隠された新しい機能ペプチド	向井秀仁・木曾良明	18	1
植物ウイルス抵抗性タンパク質による病原体認識の特異性決定機構		関根健太郎・小林括平	23	1	
抗生物質エバームクチンの生産を誘導する新規放線菌ホルモンの発見		木谷 茂・仁平卓也	27	1	
抗生物質ストレプトスリシンの修飾酵素と生合成酵素による毒性緩和		濱野吉十	32	1	
藻類レクチンの機能性物質としての可能性		堀 貫治	129	2	
乳酸菌における不飽和脂肪酸の飽和化反応に関わる新規酵素群の機能解析		岸野重信・小川 順	134	2	
細菌のクオラムセンシング機構：アシルホモセリンラクトンレセプター研究の新展開		老沼研一	138	2	
清酒のおいしさと酔いに影響を与える成分		伊豆英恵	142	2	
好熱性真正細菌における tRNA 硫黄修飾塩基とユビキチン類似翻訳後修飾		嶋 直樹	146	2	

	title	name	page	no.
解説	登熟種子の金属蓄積に果たすリン貯蔵物質フィチン酸の役割	吉田 薫	215	3
	植物 N 型糖鎖の分解とその生理的意義	石水 毅	220	3
	有機物から無機肥料を作る：並行複式無機化法とその土壌創出技術への応用	篠原 信	224	3
	細胞分裂の仕組みに迫る 一染色体分離の鍵酵素 separase の活性の可視化と作用機序の解明	進藤軌久・広田 亨	229	3
	バイオナノカプセルを用いるイムノセンシング分子の整列化技術	飯嶋益巳・黒田俊一	314	4
	高分子電解質をトリガーに用いる酵素活性の制御	栗之丸隆章・白木賢太郎	318	4
	QTL-seq & MutMap: 次世代シーケンサーを用いた新規遺伝子同定法	高木宏樹・阿部 陽・寺内良平	322	4
	次世代シーケンサーと微生物ゲノムアノテーション	大山 彰	326	4
	「アミノインデックス技術」：医療分野でのアミノ酸分析とバイオインフォマティクスの活用	村松孝彦	332	4
	花粉の自家蛍光特性を利用した実用的な花粉種自動識別計測装置の開発	青柳秀紀・藪崎克己・光本浩太郎	407	5
	ラビリンチュラ類の分子育種の基盤構築と高度不飽和脂肪酸生合成経路の解明	伊東 信	412	5
	リグノセルロース系バイオマス由来発酵阻害剤による酵母の翻訳阻害と mRNP 顆粒の形成	井沢真吾	416	5
	数理モデリングによる植物の代謝反応ネットワークの解明	平井優美・シユタサ・カンスポーン・白石文秀	420	5
	糖質加水分解酵素ファミリー 31 に属する α -グルコシダーゼの構造と基質・反応特異性	奥山正幸	424	5
	「琉球」にちなむ黒麹菌の学名 <i>Aspergillus luchuensis</i> の復活	山田 修	499	6
	担子菌酵母によるマンノシルエリスリトールリピッドの生産と化粧品への応用	森田友岳	504	6
	微生物を利用したタンパク質-ナノ磁性粒子複合体の創製	吉野知子・本多 亨	508	6
	キャピラリー電気泳動による微生物細胞の迅速分離同定技術	鳥村政基	512	6
	細菌の薬剤耐性機構 ~ゲノム変化を伴う耐性と伴わない耐性~	間世田英明	516	6
	植物の水環境の感知メカニズムとカリウムイオン輸送	刑部祐里子	520	6
タマネギ催涙因子合成酵素の基礎研究と応用可能性	正村典也	525	6	
トピックス	24 時間リズムを生み出す遺伝子発現調節機構	華岡光正	36	1
	トマトにおける低温耐性付与および抗酸化力の促進	三浦謙治	38	1
	微生物発酵によるビニルモノマー生産法の開発	麻生祐司・小原仁実	40	1
	害虫を農業抵抗性にしてしまう腸内共生細菌	菊池義智	43	1

	title	name	page	no.
トピックス	L- グルコース代謝機構の発見	中村 顕	150	2
	メタボローム解析に基づくチーズ品質評価技術の開発	越智 浩・福崎英一郎	153	2
	加圧熱水分解セルロースに含まれるグリコールアルデヒドに耐性を持つ酵母の育種	北垣浩志・ Lahiru N. Jayakody・ 林 信行	155	2
	植物の乾燥ストレス耐性に関わる K ⁺ チャネルの制御機構	浜本 晋・七谷 圭・ 魚住信之	234	3
	微生物の電気共生：微生物と鉱物からなる送電網	加藤創一郎	237	3
	肝線維化マーカーの開発と実用化	成松 久	337	4
	二結晶型分光器を用いた蛍光 X 線分光法で植物中の元素の振る舞いを調べる	杉山暁史・高梨功次郎・ 伊藤嘉昭・福島 整	340	4
	一酸化窒素を介した酵母の新しい抗酸化メカニズムとその応用	高木博史	343	4
	第3のイオンで駆動するハイブリッド型細菌べん毛モーターの発見	寺原直矢・佐野元彦・ 伊藤政博	346	4
	優良品種ダブルマッスルトラフグの作出を目指して	吉浦康寿	429	5
	特異的レクチンを利用したヒト幹細胞の簡便な品質管理法の開発	伊藤弓弦・館野浩章・ 小沼泰子・平林 淳	432	5
	世界最深部のマリアナ海溝に生息する超深海性ヨコエビが生産する新規セルラーゼ	小林英城	434	5
	セサミノール配糖体分解酵素の発見	下山武文・高橋征司・ 中山 亨	436	5
	メタゲノム解析により見出された温泉環境に優占する未培養巨大鎌状細菌の硫黄代謝	玉澤 聡・玉木秀幸	438	5
	油糧糸状菌 <i>Mortierella alpina</i> による EPA の常温発酵生産	安藤晃規・櫻谷英治・ 小川 順	441	5
	スマート発酵工学によるブタノール生産	野口拓也・田代幸寛・ 園元謙二	530	6
	電極基板を用いた効率的な環境微生物回収法	小山純弘	533	6
	細胞分裂制御における Greatwall キナーゼの新規機能	岸本健雄	536	6
	ショウジョウバエは体内でアミノ酸が不足するとアミノ酸が好きになる	利嶋奈緒子・谷村禎一	538	6
	学会見聞記	日本生物工学会	山本秀明・田畑健一郎・ 足立雄悟・大浦 啓・ 小山佑介・松村優子	45
日本農芸化学学会大会		黒田浩一・村上一馬・ 村井正俊・水重貴文・ 河井重幸・浦野信行・	349	4

	title	name	page	no.
学会見聞記		松尾道憲・伊福健太郎・ 小林 敬・川本 純		
バイオの窓	トウキビのバイオロジー	松本謙一郎	62	1
	難しい進路選択、だけど正解はない？	加藤 晃	157	2
	日本のための科学	富永大介	239	3
	天然物創薬で出会った菌類	山口裕一	359	4
	さすらい研究者生活	堀 知行	457	5
	環境細菌への感情移入	加藤純一	540	6
シリーズ	バイオが貢献して拓く未来社会			
	③ 機能性食品制度の現状と将来展望 健康表示の制度と科学を踏まえて	清水俊雄	50	1
	④ 進化を続ける抗体医薬	角田浩行・服部有宏	158	2
	⑤ なぜ植物工場なのか ―その背景、現状および社会的役割―	古在豊樹	240	3
	⑥ バイオインフォマティクスの現状と将来展望	長洲毅志	444	5
産業と行政	つくば国際戦略総合特区における次世代がん治療 (BNCT) の開発実 用化プロジェクトについて	熊田博明	63	1
	幹細胞技術の標準化と産業化 ― part-2 ―	堀 友繁	67	1
	「臨床研究・治験活性化5か年計画 2012」の策定と厚生労働省の 取り組み	山田雅信	168	2
	平成 24 年度 地域新成長産業創出促進事業 課題解決セミナー「バイオベン チャー投資の新展開」	山崎清一	173	2
	幹細胞技術の標準化と産業化 ― part-3―	堀 友繁	176	2
	「臨床研究・治験活性化5か年計画 2012」における文部科学省の取 り組み	彦惣俊吾	254	3
	平成 25 年度 各省バイテク関連予算案		259	3
	アミノ酸発酵技術の系統化調査	中森 茂	279	3
	文部科学省における産学官連携施策および地域科学技術振興施策に ついて	小林遼平	458	5
	農林水産・食品分野と異分野との融合研究の推進について	島田和彦	541	6
	「農林水産物と健康に関する研究開発について」の策定について	島田和彦	545	6
(シリーズ:NBT)	シリーズ：新植物育種技術 (NBT) まえがき	不藤亮介	270	3
	① 新植物育種技術の研究・開発動向	鎌田 博	270	3
	② 植物における新ゲノム改変技術の開発と応用	雑賀啓明・土岐精一	275	3
	③ 非病原性植物 RNA ウイルスを用いた新育種技術 (NBT) の開発	吉川信幸	360	4

	title	name	page	no.
産業と行政 (シリーズ:NBT)	④ 動物におけるゲノム編集技術の現状と可能性	山本 卓・佐久間哲史・ 鈴木賢一・坂本尚昭	365	4
	⑤ 植物育種技術としてのエビ変異体作出法	葛西厚史・原田竹雄	462	5
	⑥ ZFN 技術を用いた新植物育種への応用	高橋靖幸	550	6
国際動向	日本・中国シンポジウム：バイオマスリファイナリーと資源循環型 社会の構築のためのバイオテクノロジー	福田和彦	71	1
	生物多様性条約 第 11 回締約国会議 (COP11) ～名古屋議定書を巡る最 近の国内外の動向～	井上 歩	182	2
	BIO-Europe 2012 および MEDICA に参加して	田中裕教	188	2
	BIO-Europe Spring2013 参加および Alsace BioValley 訪問	田中裕教・高倉 薫	369	4
	2013 BIO International Convention 参加報告	塚本芳昭・田中裕教・ 森下節夫	371	4
	生薬および漢方製剤等の国際標準化議論について	日本漢方生薬製剤協会・ 国際対応ワーキンググ ループ	466	5
	Myriad Genetics の遺伝子特許に対する米国最高裁判決	河部秀男・奥山英二	470	5
	遺伝子組換え作物の世界動向 2012 年	富田房男	555	6
	合成生物学関連の国際学会、最新の周辺事情 NITE のミャンマーにおける微生物探索	板谷光泰 安藤勝彦	560 562	6 6
書 評	おもしろサイエンス 発酵食品の科学	山本 (前田) 万里	101	1
	GMP 準拠 細胞処理施設の基本	大政健史	197	2
	生命システム工学 進化分子工学から進化生命工学へ	河原正浩	297	3
	幹細胞技術の標準化 ―再生医療への期待―	大政健史	298	3
	ひらく、ひらく「バイオの世界」14 歳からの生物工学入門	塩野義人	389	4
	酵素資源余話 ―酵素のおもしろさを尋ねて―	三原久明	482	5
	極限環境生物の産業展開	平山仙子	503	6
JBA ニュース	BioJapan2012 World Business Forum アジア発 オープンイノベー ション新時代		73	1
	BioJapan2012 主催者セミナー		83	1
	発酵と代謝研究会 シンポジウム 乳酸菌研究の新たな道標―基盤研 究、食、健康、ものづくり	丸山潤一	96	1
	新資源生物変換研究会 シンポジウム 日本から発信する、エネルギー革 新 省エネ型炭素固定と e- バイオの融合	石井正治	98	1
	BioJapan2012 JBA 三賞合同授与・発表		192	2
	平成 25 年 バイオ関連団体合同賀詞交歓会		194	2

	title	name	page	no.
JBA ニュース	2011年度 知的財産委員会活動報告 食品の用途発明保護について—中 国での食品の用途発明について—		195	2
	首都圏バイオネットワーク 平成24年度 第1回 産学連携セミナー「難治 性疾患の治療法と新薬開発の最前線」		283	3
	アルコール・バイオマス研究会見学会 産総研内 JBA つくば研究室見学 および加速的先導技術PJの糖化と発酵に関する講演会	池 正和	286	3
	アルコール・バイオマス研究会講演会 日本の糖化酵素は世界に負けてい ない		287	3
	“未来へのバイオ技術”勉強会 ヒトiPS臨床応用のカギを握る動物実験 系～iPS細胞に関わる霊長類マーマーセットからヒト疾患モデルマウスまで～	阪田洋子	290	3
	AUTM Asia 2013 Kyoto 参加報告		292	3
	発酵と代謝研究会 講演会 美味しい健康生活は微生物が作る～作物生 産、食品素材開発、健康支援～	小川 順	375	4
	2012年度日本生物工学会技術セミナー「食品加工技術と食のメタボロ ミクスの最前線」	新谷尚弘	377	4
	大学発・選り抜きバイオセミナー&ブレーンストーミング 金沢大学：製薬、 化学、食品、化粧品等に展開する安全性創薬研究		379	4
	バイオ・ライフサイエンス領域の特許実務と米国特許法改正に関す るセミナー		382	4
	産学交流部会 主催 オープンイノベーション戦略に関するセミナー開催		386	4
	新資源生物変換研究会シンポジウム モノづくりバイオの新展開—合成生 物工学の行く道	植田充美	475	5
	バイオエンジニアリング研究会 ラウンドテーブル・ディスカッション (見学会) —バイオ医薬品エンジニアリングの新展開—	山田智也	477	5
	2013年度 知的財産委員会活動報告「発明者の認定」および「マテリ アル」における課題について		565	6
	“未来へのバイオ技術”勉強会「バイオ燃料・バイオリファイナリー研 究開発」における菌株育種とプロセス開発の潮流と最先端オミクス 解析の活用による新展開	森脇香織・新城雅子・ 高木博史	567	6
発酵と代謝研究会 シンポジウム 放線菌によるヒト・動物医薬と農薬へ の貢献—探索と選抜、機能解析から新規開拓へ—	手塚武揚	569	6	
JBA バイオリーダーズ研修 2013 開催報告		571	6	
表紙写真 (左より)	輝く花をつくるダイヤモンド細胞 (Vol.70 p.440「目で見るバイオ」より)			1
	イオンビーム育種によるカーネーション「輝き紫」(Vol.70 p.458「トピックス」より)			1
	CpAG2 キメラリプレッサーを導入した組換えシクラメン (Vol.70 p.181「目で見るバイオ」より)			2
	CpAG1 キメラリプレッサーを導入した組換えシクラメン (Vol.70 p.180「目で見るバイオ」より)			2

title		no.
表紙写真 (左より)	有機質肥料活用型養液栽培によるコマツナ (Vol.71 p.226「解説」より)	3
	土壌化した人工樹脂で栽培したトマト (Vol.71 p.228「解説」より)	3
	キンギョ (スイホウガン) (三重大学 田丸 浩准教授ご提供)	4
	魚類によるハイスルーブットなタンパク質・抗体生産 (キンギョ スイホウガン) (vol.70 p.471「トピックス」より)	4
	ダブルマッスルウシ (ピエモンテ種) (Vol.71 p.429「トピックス」より)	5
	ダブルマッスルトラフグ (Vol.71 p.398「目で見るバイオ」より)	5
	タマネギ (ハウス食品グループ本社(株) 正村典也氏ご提供、Vol.71 p.525「解説」より)	6
	カイコウオオソコエビ (独)海洋研究開発機構ご提供、Vol.71 p.434「トピックス」より)	6

● 案 内

千里ライフサイエンス国際シンポジウム
**2014 Senri Life Science International Symposium on
 “Innate Immunity, Cytokines, and Immune Regulation”**

日時：2014年1月31日(金) 10:00～17:00

場所：千里ライフサイエンスセンタービル

5階ライフホール

コーディネーター

審良 静男 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 拠点長 教授)

坂口 志文 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授)

主催：(公財)千里ライフサイエンス振興財団

プ ロ グ ラ ム

Opening address

Tadamitsu Kishimoto (President of Senri Life Science Foundation)

“The non-canonical Inflammasome Pathway”

Vishva M. Dixit (Genentech Inc., USA)

“Regnase-1, a ribonuclease essential for the regulation of immune responses” Shizuo Akira (Osaka University)

“Dendritic cell diversification in immune regulation”

Kenneth Murphy (Washington University School of Medicine, USA)

“Commensal control of tissue immunity”

Yasmine Belkaid (NIAID, NIH, USA)

“Memory T cells” Marc K. Jenkins (University of Minnesota Medical School, USA)

“Control of immune responses by regulatory T cells” Shimon Sakaguchi (Osaka University)

“The immune response in tuberculosis: from mouse models to human disease”

Anne O' Garra (MRC National Institute for Medical Research, UK)

“A new era for the therapy of autoimmune inflammatory diseases”

Tadamitsu Kishimoto (Osaka University)

Closing remarks Shizuo Akira (Osaka University)

使用言語：英語

定 員：200名

参加費：無料

申込要領：氏名、勤務先、所属、〒所在地、電話番号、E-mail アドレスを明記の上、E-mailにて

申 込 先：(公財)千里ライフサイエンス振興財団

国際シンポジウム E6 係

E-mail sng@senri-life.or.jp

TEL 06-6873-2001

URL <http://www.senri-life.or.jp>

〒 560-0082 大阪府豊中市新千里東町 1-4-2